

課題番号4

## 宮崎県における梅毒の 流行状況の解析

微生物部

○水流奈己 宮原加奈 成田翼  
新田真依子 吉野修司

1

## 目的

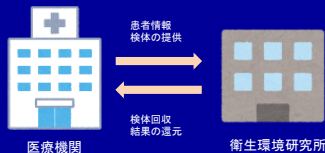
- 遺伝子検査による梅毒検出系の構築
- 分子疫学的な解析によって本県の流行状況を分析

2

## 方法

協力医療機関の募集等、検体確保スキームの確立

県立宮崎病院  
医療法人みのり会フタバ皮膚科形成外科  
医療法人社団オーブ会山崎皮膚科医院  
医療法人社団杏英会きくち皮膚科泌尿器科クリニック  
社会医療法人同心会古賀総合病院



3

## 調査内容

梅毒の臨床検査への協力のお礼  
① 感染経路・感染時期（確定・推定）  
1 性的接触  
(A) 性交 (B) 挿入口  
(ア) 常套具 イ 無常套具 ウ 不明  
(性風俗産業の従事歴 (最近6か月以内)  
1) 有 2) 無 3) 不明  
2 母子感染 (ア) 胎内・出産時 イ 母乳  
3) 有 4) 無 5) 不明  
6 輸血・血液製剤  
7 輸血・血液製剤の種類・使用年月・状況  
8 その他 ( )  
9 不明  
② 感染地域（確定・推定）  
1 日本国内 ( ) 都道府県 ( ) 市区町村 ( )  
2 国外 ( )  
(国名 ( ) 詳細地域 ( ) )  
3 不明  
③ 過去の治療歴  
1) 1年以上前 2) 1年以内 3) なし 4) 不明  
④ 医師より、開封があります。

4

## PCR法による遺伝子検出

既出の論文に基づき、下記の遺伝子をターゲットとした検出を検討した。

- TpN47をコードする遺伝子
- polA*(菌種特異領域)

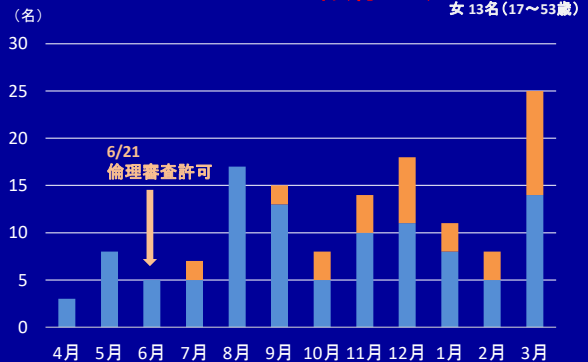
- ① 国立感染症研究所から推奨された方法 (Conventional PCR法) ※1, 2
- ② Nested PCR法 (1の方法より高感度) ※3  
1の方法で陰性だった場合に実施

※1 Liu H. et al. J Clin Microbiol 39:1941-1946,2001  
※2 Oho KA et al. J Clin Microbiol 34:49-54,199  
※3 Wang C et al. Emerg Microbes Infect 8:3May9:7(1),2018

5

## 梅毒発生届出数と当所での回収数

35/139名(約25%) 男 22名(23~61歳)  
女 13名(17~53歳)



6

## 結果(PCR法による遺伝子検出)

	浸出液	唾液	血液
陽性	6	21	1
提出検体数	10	35	5
陽性率(%)	60	60	20

7

## 結果(浸出液)

### 過去3年以内の性的接触状況

	陽性	陰性
1か月以内	5	1
2~3ヶ月以内	1	3

### 病型

	陽性	陰性
早期顕症梅毒(7、I期)	4	2
早期顕症梅毒(4、II期)	2	2

8

## 結果(唾液)

### 過去3年以内の性的接触状況

	陽性	陰性
1か月以内	9	2
2~3ヶ月以内	6	6
半年以内	2	4
1年以内	1	0
2~3年以内	1	1
10年	1	0
なし	1	0
不明	0	1

9

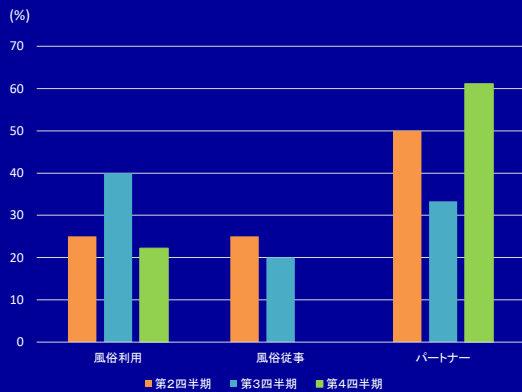
## 結果(唾液)

### 病型

	陽性	陰性
早期顕症梅毒(7、I期)	5	7
早期顕症梅毒(4、II期)	8	4
無症候(無症状病原体保有者)	7	3
不明	1	0

10

## 聞き取りによる推定感染経路(割合)



11

## まとめ

- 遺伝子検査は、梅毒の診断の補助となる可能性が示唆された
- 侵襲性のない唾液検体における遺伝子検査の有用性が示された
- 推定感染経路の聞き取り調査によるとパートナーからの感染が増加傾向であった

12

## 今後の計画

- 検体収集の継続
- 遺伝子型別による分子疫学的な解析